

協会を支える分科会活動

分科会運営委員会 委員長 奥山 喜久夫

1. はじめに

分科会活動は、国際粉体工業展と並んで、協会の中心的な活動であり、現在21の分科会体制（単位操作型14、プロジェクト型7）となっている。分科会の活動は、協会の企業会員および個人会員の交流の場、未入会企業の入会に繋がる場として大変重要であり、分科会運営委員会はこれらの分科会が持続的に運営および活動されるようにサポートを行っている。委員の構成は、委員長：奥山喜久夫、副委員長：浅井信義、鈴木康夫、委員：秋山聡、アドバイザー：山田幸良の5名である（敬称略）。ここでは主として、新型コロナウイルス感染症流行下での2022年度の分科会活動の全体的な状況、分科会運営委員会の活動の概要および2023年度の活動の方向性を述べる。

2. 2022年度の分科会活動の概要および運営委員会の活動

2-1 全般的状況

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行により、通常での分科会本会合の開催は困難であったが、各分科会がWebセミナーやハイブリッド講演会を進め、オンサイトでの見学会も安全に開催した。本年度開催の本会合は延べ45回、参加者総数は約1,900名であり、昨年度より大幅に改善され、ほぼ新型コロナウイルス感染前の水準に戻った。17の分科会で2回以上の本会合が開催され、粉体ハンドリング分科会および環境エネルギー・流動化分科会は4回の本会合を開催した。また、海外での分科会活動としては、晶析、粒子加工技術、粉体シミュレーション技術利用、微粒子ナノテクノロジーの各分科会がドイツACHEMAの併催行事のIPNF2022（国際粉体・ナノテクノロジーフォーラム）にて合同分科会を開催し、粉砕分科会は台湾で台湾セラミックス学会と共催するなど活発に行われた。

2-2 拡大分科会運営委員会および分科会連絡会議の運営

毎年度開催している拡大分科会運営委員会（2022年8月：京都）および分科会連絡会議（2023年1月：名古屋）もコロナ禍の影響を受け、Web併用による会議として開催されたが、昨年度と比べ多くの方が会場での参加となり、分科会活動の進め方および課題が議論された。

拡大分科会運営委員会では、各分科会から本年度の事業計画の見直しが説明され、海外での分科会の開催状況、リモート見学会つきの講演会の紹介など、Web利用による分科会の開催に向けての議論が行われた。また、分科会運営相談会を、輸送分科会、微粒子ナノテクノロジー分科会、粒子加工技術分科会を対象に実施し、分科会の活動状況および課題について、分科会の主要メンバーと分科会運営委員会の間で意見交換を行った。

分科会連絡会議は、各分科会から2022年度の活動状況、2023年度の事業計画と運営方針・課題などの説明が行われた（写真-1）。また、表-1～3のように、分科会活動に貢献した9名の方々が第18回分科会功労賞を、また長年にわたり分科会活動に貢献された石川敏氏（関西金網株）が特別感謝状を、委員会・部門活動に貢献した3名の方々が第9回委員会・部門功労賞を受賞された。



写真-1 分科会運営委員会連絡会議の様子

2-3 分科会の教育部門や国際粉体工業展での活動

分科会活動で得た有益な情報・知見を外部に発信する場として粉体技術専門講座が開催されている。本年度は、粉体ハンドリング分科会が「粉体物性・供給・輸送・粉体プロセス」を開催した。

表-1 2022年度 第18回分科会功労賞受賞者一覧

氏名	所属	分科会
飯田晃弘	(株)大川原製作所	乾燥
稲山良介	大塚電子(株)	計装測定
内田和宏	(株)パウレック	造粒
榎本直弘	集塵装置(株)	集じん
島田理史	(株)菊水製作所	粒子加工技術
角家強志	(株)構造計画研究所	粉体シミュレーション技術利用
中尾修也	(株)村田製作所	粒子積層技術
野村光生	(株)日清製粉グループ本社	食品粉体技術
馬場一寿	(株)セイシン企業	リサイクル技術

(氏名50音順、敬称略)

表-2 特別感謝状受賞者

氏名	所属	分科会
石川敏	関西金網(株)	湿式プロセス

(敬称略)

表-3 2022年度 第9回委員会・部門功労賞受賞者一覧

氏名	所属	委員会・部門
近藤俊一	(株)日清製粉グループ本社	粉じん爆発
田中満也	関西フェルトファブリック(株)	集じん技術
根本源太郎	大川原化工機(株)	「粉体技術」編集

(氏名50音順、敬称略)

また、粉体技術者養成講座は、教育部門主催と分科会主催で開催されているが、教育部門では、「乾燥」(乾燥分科会)・「混合・混練」(混合・成形分科会)・「粒子加工」(粒子加工技術分科会)・「集じん」(集じん分科会)・「粉碎」(粉碎分科会)・「ろ過」(湿式プロセス分科会)の6講座が開催され、分科会主催では、「計測・測定」を、計装測定分科会が開催した。

また、国際粉体工業展東京2022併催行事において、輸送、混合・成形、湿式プロセス、晶析、電池製造技術、粉体シミュレーション技術利用の6分科会がセミナーを実施した。

2-4 分科会運営委員会の活動など

当初の計画通り4回の委員会を開催し(うち1回は拡大分科会運営委員会)、以下のような検討を行った。

- (i) 分科会活動の支援方法などに関すること
- (ii) 拡大分科会運営委員会では分科会活動の紹介と分科会の組織の強化などへの対応
- (iii) 新型コロナウイルス感染症流行下における分科会の活動における「オンライン開催」と「Webセミナー開催」の進め方

さらに各分科会のロードマップの改訂などについて小委員会で議論した。

3. 2023年度の分科会運営委員会活動の方向性

①分科会の体制・組織の強化

分科会運営相談会などを通して、分科会体制の改善が必要な場合は、分科会と協力して組織および運営の充実化を図る。将来必要となる粉体技術に応じて新しい分科会の立ち上げや、統合などについて議論する。さらに、分科会の活動方向を示すロードマップを分科会と共同で改訂する。

②コロナ禍継続下での分科会活動

各分科会での本会合の開催は原則年2回以上であるが、粉体技術者養成講座や専門講座を含むことで、状況に応じ無理のない範囲で実施する。本会合開催後の交流会も感染対策に配慮して開催する。

③粉体技術者養成講座の開催と専門講座の着実な実施

粉体技術者養成講座は、分科会が関連する基礎的な粉体技術を技術者に伝承することを目的とし、原則として2年に1回の開催とする。専門講座は、分科会活動で得た最新の技術的知見などを集約し広める場であり、数年に一度程度開催する。

④新入会員のフォローとメルマガの配信への協力

新入会員が希望する分科会を登録した場合、新入会員のフォローを総務委員会、海外交流委員会と連携して行う。また、メルマガ配信数の拡大のために、個人情報取り扱いの承諾を得られた分科会の本会合への参加者リストを総務委員会に提出して、広報活動の一助となり、未入会企業の入会に繋がるようにする。

4. おわりに

分科会運営委員会は、分科会活動の全体的な検討を行い、協会の中心的活動として将来に向かって順調に発展するように議論する。また、多くの分科会がAIやDX技術の導入・利用に関心を持っているので、AI技術利用委員会との連携をサポートしたいと考えている。

おくやま きくお
奥山 喜久夫
広島大学名誉教授

E-mail: okuyama@hiroshima-u.ac.jp